

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関名 福井県教育委員会
代表者名 豊北 欽一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日） ～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立丸岡高等学校

学校長名 島田 芳秀

類型 グローカル型

3 研究開発名

持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成

4 研究開発概要

- (1) 文理融合のカリキュラム研究開発と国際協働探究学習の推進
- (2) 社会にイノベーションを起こす地域リーダーの育成
- (3) 留学生の受け入れとグローバル人材の育成
- (4) コミュニケーション能力を重視した英語の授業実践
- (5) 探究的な学びを指導できる教師の育成
- (6) ポートフォリオの研究・開発
- (7) 18年型探究学習モデルの研究・開発

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
----	------	----

藤岡慎二	北陸大学 教授	運営指導委員長
加藤重信	元ヨルダン特命全権大使・元シドニー総領事	
三田村彰	福井大学連合教職大学院 教授	
木村優	福井大学連合教職大学院 准教授	
吉田英史	福井県教育総合研究所 新教育課程課課長	
三上寛司	坂井市総合政策部企画情報課 課長	
瀬戸川聖一	あわら坂井ふるさと創造協議会（アズAS） 福井銀行丸岡支店長	
遠藤貴広	福井大学連合教職大学院 准教授	
松田通彦	福井大学連合教職大学院 客員教授	
小和田和義	福井大学連合教職大学院 客員教授	
西川満	福井大学連合教職大学院 客員教授	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
福井県教育委員会	教育長 豊北欽一
坂井市	市長 坂本憲男
坂井市議会	議長 古屋信二
坂井市教育委員会	教育長 川元利夫
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）	会長 坂本憲男
坂井市まちづくり協議会	会長 坂本憲男
丸岡ロータリークラブ	会長 東角操
（一社）丸岡城天守を国宝にする市民の会	会長 松本富男
OECD 日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）	代表 東京大学教授 鈴木寛
福井大学連合教職大学院内 ISN 探究チーム福井	研究総括 木村優
福井県立丸岡高等学校	校長 島田芳秀
福井県立丸岡高等学校PTA	会長 中出奈津枝
坂井市立丸岡中学校	校長 水持直幸
坂井市立丸岡南中学校	校長 柳原潤一郎
坂井市立平章小学校	校長 甲斐和浩
坂井市立長畝小学校	校長 山本一郎
（台湾）高雄市立福誠高級中学	校長 蘇清山

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村優	福井連合教職大学院 准教授	丸岡高校に勤務する 大学院生（教員）の 指導教官のため、謝 金不要
カリキュラム開発専門家	藤岡慎二	北陸大学教授	都度依頼し謝金払い

海外交流アドバイザー	王林鋒	福井大学連合教職大学院 特命助教	都度依頼し謝金支払い
海外交流アドバイザー	ポリン・マングラー ブナン	福井大学連合教職大学院 特命助教	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	竹吉 睦	丸岡ロータリークラブ (学校教育担当)	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	岩田早紀代	元福井県広報課職員	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	田川裕大	一般社団法人BEAU理事	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	林裕也	ご当地アイドルヒーローはっぴーすマン	都度依頼し謝金払い

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究所の支援	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣		指導 主事 派遣	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣	指導 主事 派遣
合同発表会 支援				合同 中間 発表会					合同 発表会	

(2) 実績の説明

- ①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について
 - ・継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮として、加配を行う
 - ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が研究開発の支援を行う
- ②事業終了後の自走を見据えた取組について
 - ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が継続して研究開発を支援する
- ③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
 - ・令和元年度に（台湾）高雄市立福誠高級中学とフレンドシップ協定
 - ・令和3年度に坂井市との連携協定を締結予定

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における探究学習			2回	2回		3回	2回	4回	2回	3回	3回	2回

学校設定科目「グローバル・スタディー英語」における探究学習			4回	1回		3回	4回	5回	1回	3回	3回	
学校設定科目「グローバル・スタディー社会」における探究学習			4回	1回		3回	4回	5回	1回			
部活(地域協働部やESS部)によるグローバル活動		2回	12回	9回	9回	9回	15回	12回	12回	12回	12回	5回
海外研修プログラム			1回	1回	1回	3回	4回	5回	5回	1回	1回	
丸高カレッジ(市民講座)		1回	1回	1回	1回	1回		1回				
JKB(教員の資質向上)		1回	2回	1回		2回	2回	3回	2回	3回	2回	

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

【地域課題研究の内容】

本校では「ア 地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任をもって行動できる力、イ 多文化共生社会をめざし、外国人と協働して課題を発見し解決できる力、ウ 世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す企業力」を育むことを目標としている。学年ごとに身につけてもらいたい資質・能力をさらに細かく設定し、生徒との共有理解のもと探究学習を進めている。

1年次では、「地域へアクセスする力」「情報収集・活用する力」「主体性・責任感(Agency)」の3つを目標に掲げて、総合的な探究の時間(Mプロジェクト)をプログラムしてきた。

2年生では、「多面的な見方や考え方」「論理的な思考力」「共同エージェンシー(Co-Agency)」を目標に掲げた。個人の責任を果たすことに加え、地域社会等と協働する活動においてもAgencyを発揮できる力を身につけることを目標に取り組んだ。

3年生では、「自分で見極め、選択する」「自分で目標を設定し、自発的に実行する」「自らの成果を自己評価し、振り返る」を目標に掲げ、生徒一人ひとりが将来の夢について考え、地域と主体的に関わりながら進路を実現することを目的に取り組んだ。

実施計画概要(1年生の例)

月 日	学習テーマ	概要
4月16日 ～5月7日	時事問題読解①～④ 【自宅学習課題】	新聞記事等から「未来に残したい丸岡の宝」を探し、ポスターを作成した。自分が選んだ記事の内容を紹介し、それを選んだ理由をまとめることにより、地域の現状や課題を理解し、地域での取り組みに対して興味・関心を高めることができた。
7月 27,29日	課題解決型学習とは① 【オリエンテーション】	早い段階から課題解決型学習の取組を意識させるために、県の教育総合研究所と連携し、課題解決学習の基礎学習を実施。

7月22日 ～9月2日	学校祭で地元商品 PR 【フィールドワーク】 【ポスターセッション】	クラス単位で選んだ地元企業の概要・企業理念について事前に調べ、企業訪問先で取材した内容をポスターにまとめた。その企業と協働してオリジナル商品（マスク、食品等）を提案し、学校祭で商品 PR、販売をした。身近な商品を通して地元企業の取り組みについて学ぶことができた。
9月24日 ～1月14日	地元企業を知ろう ①～⑩ 【フィールドワーク】 【ポスターセッション】	4～5人グループで地元企業について深く学ぶ活動を行った。関心のある企業の事前調査、地元企業との交流会、取材依頼、取材（電話・書面・訪問）、ポスター制作までの過程をグループ単位で行った。1月14日に地元企業、コンソーシアムの方々を招聘してポスターセッションを行った。事後に行われた企業担当者との協議会では、生徒は改善点を直接担当者から指摘していただくことができ、「伝える力」「質問する力」の大切さを学ぶと同時に、地元企業の地域貢献について深く学ぶことができた。

実施計画概要（2年生の例）

月 日	学習テーマ	概 要
6月11日 ～7月2日	課題解決型学習 ”SDGs”について学ぶ ①～⑤	2年次には、グローバルな視点を取り入れた地域活性化を学ぶことを目的とした。SDGs を導入し、課題解決における幅広い見方・考え方を養った。①SDGs 概要理解、②SDGs すごろく、③本校教諭1名の他、外部より 2030SDGs ゲーム公認ファシリテーターを招聘し、クラス単位でゲームを実施した。なぜ今、全世界で SDGs 達成が求められているのか、現代社会で起きている出来事を自分自身に関わる課題として理解し、グローバルな視点で地域活性化を考えることができた。
9月10日 17日	課題解決型学習 2030SDGs ゲーム プロジェクトカード①②	地元丸岡町の地域活性化プランを考え、各自が1枚「丸岡版 2030SDGs ゲームプロジェクトカード」を作成した。9月18日のポスターセッションに備え、リハーサルを行った。10月25日に開催された「福井国際フェスティバル 2020」にも代表作品を出展した。
9月18日	グローバル中間発表会 【ポスターセッション】	コンソーシアムの方々を招聘して、二交代制で2年生全員がポスターセッションを行った。質疑応答の後、来場者からコメント付き付箋を貼っていただいた。これからポスターセッションに取り組む1年生の良いモデルとなった。
10月27日	課題解決型学習 SDGs キャッチフレーズ	坂井市「SDGs キャッチフレーズ考案事業」に本校2年生が協働作成に参加することが決定した。地域の方々や有識者の方々と共に、グループ協議を通して、坂井市の目指すまちづくりを象徴するようなキャッチフレーズを検討した。考案されたキャッチフレーズは、生徒会長から市の職員の方に手渡された。
11月 5,19日	課題解決型学習 丸岡版プロジェクトカード の実践	11月5日、丸岡インター付近やバスターミナル、JR丸岡駅などの自分たちが事前に選んだ場所で清掃活動を行った。その後、各班で活動内容をまとめ、19日に報告会を行った。報告会では、成果や反省点に加え、地域活性化やSDGs の観点のもと、どのように地域を維持管理すべきか話し合った。当日は市議会議員の方々から地域の課題についてご意見をいただき、また本校の活動について高く評価していただいた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・1～3年の総合的な学習（探究）の時間に実施
- ・学校設定科目「グローバル・スタディー英語」「グローバル・スタディー社会」での実施

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・美術科・書道科・音楽科が、教科横断型学習「校歌表現コンクール」を実施。
- ・英語科と社会科が、国内外でSDGs推進に取り組む企業訪問を実施。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・福井大学連合教職大学院に現役教員を院生として派遣し、大学院と協働してカリキュラム開発を推進していく。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

教員を8つのチームに編成し、各責任者のもと研究開発を行う。教員だけではなく、事務室の職員も研究を支援する。

【研究開発チーム】

- ・事務局チーム：事業全体を総括、各事業の進捗状況の管理、企画立案、県外視察者の対応
- ・海外協働ユニットチーム：海外研修、異文化交流などの企画運営
- ・地域協働ユニットチーム：丸岡城サミット、丸高カレッジ、議会塾などを企画運営
- ・Mプロジェクトチーム：1～3年の総合的な学習（探究）の時間の企画運営
- ・学校設定科目チーム：英語科、地歴公民科を中心に学校設定科目の研究
- ・研究チーム：教科横断型授業やカリキュラムの研究
- ・発信チーム：研究紀要の編集、広報誌の発行
- ・検証・評価チーム：運営指導委員会の企画運営
- ・会計事務チーム：事務室の職員を中心に予算や決算などの会計事務を行う

⑥学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・校内に教員の自主研究会（JKB：授業力向上研究会）を組織し、本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・本校教員1名を福井大学連合教職大学院の院生とし、連合教職大学院と協働して本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が、担当職員を継続的に派遣し、本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・OECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）のISN2.0実践校として本校の取組を検証・評価、改善していく。

⑦カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・丸岡ロータリークラブと英語科が協働して、学校設定科目「グローバル・スタディー英語」のカリキュラム開発を行う。

⑧類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・「学校設定科目」

「グローバル・スタディー英語」の開講が2年目となり、昨年度に履修した2年文系生徒が引き続き今年度開講の「グローバル・スタディー社会」を履修した。昨年度にグローバルな視点でSDGsについて学んだことをもとに、今年度は社会貢献と自己実現を

関連づけながら学習を進めてきた。またループリック評価を生徒自身で作成することで、深い学びの評価について理解を深めた。

- ・「台湾の高校との協働事業」
（ア）SDGsの「住み続けられるまちづくり」をテーマにしたプレゼンテーション動画共同制作、発表。（イ）「ネット犯罪」の実態や人々の意識調査を国別に比較検討したプレゼンテーション動画協働制作、発表。（ウ）コロナ禍の対応や政策の国別比較や意見交換。
- ・国際フェスティバルへの参加
県国際交流会館の国際フェスティバルで、本校2年生制作の「丸高版SDGsプロジェクトカード」の展示、探究活動紹介動画の紹介。

⑨成果の普及方法・実績について

- ・本校でのグローバル事業などを紹介した「丸高グローバル通信」を毎月発行し、地域の中学校、市役所、図書館、公民館、銀行などで掲示・配布（29号まで発行）
- ・学校ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等での配信
- ・テレビ・ラジオへの出演（福井テレビ、福井放送、FBCラジオ、NHK、坂井ケーブルテレビなど）
- ・新聞への掲載（福井新聞、日刊県民福井）
- ・坂井市の広報誌への掲載

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- ・生徒たちが地域や社会で起こっている出来事に関心がある
目標 25%
実績 68%
評価 目標達成
- ・海外の高校生などと実際に、またはオンラインで交流した回数
目標 3回
実績 4回
評価 コロナ禍により目標設定を変更し、目標達成
- ・外部人材が本校に活動に参画してくる人数
目標 30名
実績 69名
内訳 企業（IT企業、銀行等）30名 坂井市議会20名 地域コーディネーター6名
丸岡城を国宝にする市民の会5名 坂井市役所職員3名
SDGsファシリテーター3名 丸岡ロータリークラブ2名
評価 目標を大きく上回り達成
- ・成果の発表回数
目標 6回
実績 11回（R3年3/17時点）
内訳 台湾との協働オンライン発表、高校生ボランティア・アワード2020、Glocal High

School Meetings2021、1年生ポスターセッション、2年生ポスターセッション、課題解決型学習中間発表会、生徒国際イノベーションフォーラム、県国際交流会館でのSDGs発表、2年生SDGsプロジェクトカード実践報告

評価 目標達成（最終的には、3月23日に1回成果報告会があるので最終実績12回予定）

・新しいカリキュラム開発のための検討会の回数

目標 4回

実績 4回

内訳 学力向上研究会（JKB）主催の教員研修会

評価 目標達成

・地域と協働した活動回数

目標 7回

実績 12回

内訳 丸岡バスターミナル地域イベント（3回） 子ども食堂（4回） 丸岡そば祭り
お城 EXPO2020 丸岡南中秋祭り 城小屋マルコ 百口城主プロジェクト

評価 目標達成

・社会参画意識に関する意識調査（「私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない」と考える生徒数）

目標 55人

実績 59人

評価 目標達成

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

課題や改善点

【生徒】

- ・生徒自らが課題を見つけることが出来る力の育成
- ・質問力の育成
- ・説得力のあるプレゼンテーションが出来る力の育成

【教員】

- ・探究学習の意義、価値の全教職員による共有
- ・教員のスキルアップ（評価、教科の中での探究学習など）

【コンソーシアム、海外】

- ・継続的な協働関係の構築

【カリキュラム、評価】

- ・継続性のあるカリキュラムの確立
- ・評価方法の確立

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0549
氏 名	野村 俊夫	F A X	0776-20-0669
職 名	高校教育課 主任	e-mail	t-nomura-cz@pref.fukui.lg.jp

